

# ●敦賀総合研究開発センター



センター長  
宇埜 正美

当センターでは、2018年の発足以来、研究開発、人材育成、地域企業支援に取り組んでまいりました。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面での活動が制限されるなど厳しい状況がありましたが、地域の皆さまのご理解、ご協力を得て事業を進められたことに改めて感謝を申し上げます。

これらの活動は、昨年始動した、福井県の「嶺南Eコースト計画」の施策にも位置付けられており、本年も引き続き地域に貢献することを目指して活動を進めてまいります。

## 2021年の取り組み

ナトリウム取扱技術やレーザー応用技術などの研究開発を進めるとともに、人材育成に関しては、大学での原子力教育の講義・学生インターンシップ受入、小中高校での理科実験などを支援してまいります。

また、技術相談窓口での地域企業との相談を通して、技術開発の支援事業を展開していきます。

さらに、「ふくいスマートデコミッションング技術実証拠点」を活用し、技術検証の場を提供することで支援の充実を図ってまいります。



ふくいスマートデコミッションング技術実証拠点  
(敦賀市木崎)



科学実験教室



解体技術研修



## 原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

### 地域の皆さまへ

新春を迎え、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

### 令和3年を迎えて



敦賀事業本部長  
(副理事長)  
伊藤 洋一

私どもは、「ふげん」、「もんじゅ」について、原子力規制委員会に認可された廃止措置計画の工程に沿って、安全確保を最優先に廃止措置に向けた作業を進めてまいります。

今年は、昨年までに培った土台を基に、更に事業の質を高めるとともに、廃止措置をはじめとした研究開発の成果を地元の発展に繋げられるよう努めてまいりたいと考えています。

この敦賀地区が、廃止措置の先駆的な実証拠点となるように、役職員一同決意を新たに、取り組んでまいります。

「もんじゅ」においては、2018年度より原子炉容器及び炉外燃料貯蔵槽にある530体の燃料を燃料池に取出す作業を行っており、これまでに260体の燃料を取り出してあります。今年も、これまでの経験を活かし、安全第一で着実に燃料の取出し作業を行い、2022年度までに完遂できるよう進めてまいります。

次に「ふげん」につきましては、原子炉周辺設備の解体作業を行っており、2ループのうち、1ループ目の解体が終盤となり、今年は2ループ目の解体に着手して安全第一で計画的に作業を進めてまいります。また、使用済燃料については、2026年度夏頃に搬出を完了するという地元とのお約束を守るべく、着実に進めてまいります。



敦賀廃止措置  
実証部門長(理事)  
吉田 邦弘

#### ● 本資料に関するお問合せ先 ●

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 地域共生部 地域共生課  
〒914-8585 福井県敦賀市木崎65-20 【TEL】 0770-21-5026 【FAX】0770-21-2045  
原子力機構ホームページ: <https://www.jaea.go.jp> 敦賀事業本部ホームページ: <https://www.jaea.go.jp/04/turuga/>

発行: 令和3年1月



# ●高速増殖原型炉もんじゅ



所長 荒井 眞伸

昨年は、地域の皆さまをはじめとする関係者の皆様のご理解、ご支援をいただき、燃料体の処理を無事に進めることができました。また、当初の計画(130体)を超えて174体をトラブルなく遂行できました。

今年は、燃料体取出しの第3キャンペーンの年です。これまでの2回のキャンペーンの経験を活かし、しっかりと踏み切り、安全を最優先に大きくジャンプして、2022年の燃料体取出しのゴールに確実に着地しようと考えています。

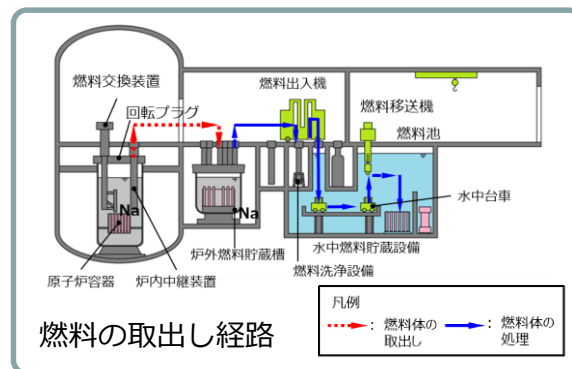
昨年の作業について機構内外の方から評価いただきましたが、これに甘んずることなく、安全第一で、緊張感をもって今キャンペーンを確実にやり、皆様からの更なる信頼につながるよう取り組みます。

また、第2段階以降の廃止措置計画の検討に一層注力し、燃料体取出し後の廃止措置の道筋を示せるよう取り組みます。

引き続き、安全確保を最優先に業務を進めてまいります。

## 「もんじゅ」燃料体取出し作業について

「もんじゅ」では、燃料体の取出しに関する設備の点検等を実施し、燃料交換準備作業が終了したことから、2021年1月23日から第3キャンペーンの「燃料体の取出し」を再開しました。2021年3月までに、146体の燃料体の取出しを実施する予定です。



年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
燃料体の処理 (530体) 炉外燃料貯蔵槽→燃料池	2018.8 100体→86体 (済み)	2019.11 174体 (済み)	2020.6 174体 (済み)	2021.9 146体	2022.6 124体
燃料体の取出し (370体) 原子炉容器→炉外燃料貯蔵槽		2019.9 100体 (済み)	2021.1 146体	2022.4 124体	
定期設備点検					

■:第1キャンペーン ■:第2キャンペーン ■:第3キャンペーン ■:第4キャンペーン

廃止措置の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策に取り組みつつ、安全確保を最優先に、立地地域並びに国民の皆さまのご理解をいただきながら、着実に進めてまいります。

# ●新型転換炉原型炉ふげん



所長 森下 喜嗣

昨年は、ふげんの廃止措置計画に基づき、原子炉周辺設備の解体などの作業を進めるとともに、循環型社会に適合すべく、解体資材に残留する放射能が基準以下で安全であることを測定によって確認し、再利用につなげていく「クリアランス」への取り組みなどを進めてまいりました。また、施設内に保管中の使用済燃料を2023年度から計画的に搬出していくために、使用する運搬用容器(キャスク)について国の審査を受けるなどの取組を進めてきています。

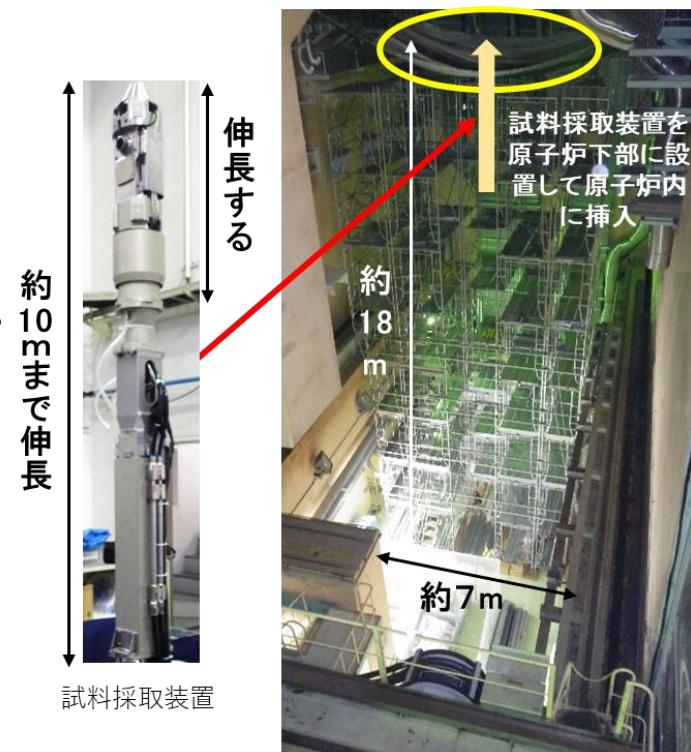
引き続き、地域の皆さまのご理解をいただきながら、また、作業においては地元企業のご参加やご協力をいただきながら、これらの作業を安全最優先で進めるとともに、廃止措置完了までの道筋をより確かなものにしていくよう取り組んでまいります。

今年も、安全第一に職場で働く仲間の健康を守りながら、敦賀廃止措置実証部門が心を一つにして業務を進めていきます。

## 「ふげん」原子炉構造材からの試料採取について

「ふげん」の炉心内部にどれだけ放射性物質があるかを確認し、2023年度から予定している「ふげん」の原子炉本体解体に反映することを目的に、原子炉内部から試料を採取し分析を行っています。

2019年度には、原子炉の下部より金属片を採取しました。次は側部からの試料採取を予定しており、その作業に向けた準備を行っています。採取した試料は、分析により放射能濃度を検証し評価していきます。



原子炉下部からの試料採取の様子